

われらの憲法

# 「歴史の英知」

## 他の国がまねすれば、世界は平和に



GHQの一員として来日した当時の写真の背後に憲法への思いを語るゴードンさん。2005年以降も中部地方をたびたび訪れた。08年4月、名古屋市東区で

### 起草に携わった故ゴードンさん

「母」を失い、初めて迎える憲法記念日となった。戦後、連合国軍総司令部（GHQ）スタッフとして日本国憲法の草案づくりに携わり、昨年12月に89歳で亡くなった米国人女性ベアテ・シロタ・ゴードンさん。晩年は何度も来日し、「歴史の英知が日本の憲法をつくった」と価値を説いた。8年前の憲法記念日、名古屋市で講演したビデオを見直し、あらためてその言葉に耳を傾けた。（栗田晃、河郷丈史）

戦後六十年の二〇〇五年五月三日、名古屋市公会堂。当時八十一歳のゴードンさんはニューヨークから来日。体調不良をおして演壇に上がり、流ちょうな日本語で語り始めた。この年の四月、衆院憲法調査会は五年間の議論を最終報告書にまとめ、戦争放棄を掲げた九条を改正する方向性を示した。秋に憲法改正草案の発表を予定していた自民党などの改憲派はGHQが草案を作った憲法を「アメリカの押しつけ」と指摘。ゴードンさんは柔らかな口調でこう応じた。

人がほかの人に何か押しつけるとき、自分のものよりいいものは押しつけないでしょ。日本の憲法はアメリカの憲法よりも素晴らしい。世界の憲法のいいところを集めた歴史の英知です。いい憲法であればそれでいい。誰が書いたかを詮索することには意味がありません

第二次大戦後、GHQスタッフとして来日し、二十歳で憲法起草を担当。男女平等など人権に関する条項を書き上げたが、憲法起草にかかわったことは七十

歳を過ぎるまで明かさなかった。一つの理由は、この憲法が極秘だと（当時）命令されたので。もうひとつは、憲法を改正したい人たちが（起草したときの）私の若さを盾に、それを改正を進めれば、それは大変なことになると思いました

起草に携わった一人として日本の憲法に注ぎ込んだ思い。ゴードンさんは約一時間の講演をこなす言葉で締めくくった。

草案した権利が毎日の生活の中で十分に生きるべきか、と心を折っています

### 「9条を守るために母の晩年はあった」

ゴードンさんの長女で、米ニューヨークに住むニコルさん(58)は3日、国連の出先機関ユニタール広島事務所に憲法記念日に合わせたコメントを寄せ、「憲法を守るとうとする日本人たちを支えるのが、母の最後の望みだった。女性の権利と9条を守るために、彼女の晩年はあった」と振り返った。日本の支持者に対しては「母の平和活動に敬意を払ってくれてありがとう」と感謝した。

長女のニコルさん

の「軍国主義」を目的にしている。いまの世界をみれば、平和が全然ないみたいですよ。日本の憲法をモデルにして、ほかの国々がそれをまねすれば良いと思います。私は字者でも専門家でもないけど、お母さん、おばあさんですから、その子とも、孫の平和への道を見つけてあげなければならぬと感じています

4 May 2013, Chunichi Shinbun  
The constitution of Japan was born out of wisdoms of histories  
On May 3<sup>rd</sup>, the day of Japan's Constitution Memorial Day, Ms. Nicole Gordon, the daughter of Ms. Beate Shirota, spoke at the UNITAR session held in UNITAR Office in Hiroshima.